

JOCS保健医療協力募金のお願い
あなたの支援が
人々が支え合う
希望ある未来につながります



バングラデシュの
障がい者や
家族の声

障がいのある子どもがいますが、
どうしていいかわかりません。
恥ずかしいので、近所の人には
見られたくありません。

ここには、リハビリテーションを
受けられるところがありません。
遠くまで行かなくてははいけないの
で、その交通費を出せません。

リハビリテーションってなんです
か。いったい、なんでそんなこと
をするのですか。

妻が、半身麻痺になりました。
面倒を見る時間なんてありません。
経済的にも負担です。

JOCS

公益社団法人 日本キリスト教海外医療協力会
Japan Overseas Christian Medical Cooperative Service (JOCS)

「自立」をめざして 一人ひとりがいきいきと歩めるように



Bangladesh・マイメイシンからのメッセージ

シュチの「今」はとても輝いています



現在のシュチさん

シュチは26歳の脳性まひの女性です。厳格なイスラム教徒の家に生まれ、24歳まで外に出ることなく、家族以外に知る人もなく過ごしました。父親は彼女が子どものころ、治療のために奔走しましたが、治らないと知って彼女をただ家においておくだけになりました。

2年前、シュチのことを偶然知ったモヒラクラブ（障がい当事者女性の自助グループ）のミタが彼女の家を訪問してから彼女の人生は変わりました。まず、家の外に出ました。女性クラブに行くためです。初めて会った時のシュチは、からだをくの字に曲げてひとに抱えてもらって部屋に入ってきました。とても太っており、手足の動きも悪かったのですが、彼女に体重を落とすことと体の動かし方を教えたことで、努力をし、今は誰かの肩に手を添えれば歩くことができます。針仕事を学び、今はキルト作りをしています。彼女の「今」はとても輝いています。

驚いたのはシュチのお父さんです。何もできないと思っていたシュチが縫物をし、物静かで親に依存するだけの子と思っていたら、ちゃんと自分の意見を持っており、未来を切り開くために意見を言えるようになったからです。先日、2年にして初めてお父さんはモヒラクラブを訪問し、「娘をよろしく願います」と謙遜な態度で言ってきました。お父さんは今シュチをととてもかわいがっています。

(Bangladesh・マイメイシン派遣ワーカー 山内章子)

JOCSの保健医療協力活動

JOCSから派遣されたワーカー（保健医療従事者）は、地域の人々と共に、喜びや苦勞を分かち合いながら、いのちと健康をまもるために活動します。

世界最貧国の一つに数えられる Bangladesh では、子どもの栄養不良や早婚、周産期管理の不備、感染症、自然災害や高所からの転落、そして車の事故等が、主に障がいの原因となっています。障がい者人口が、日本のような先進国に比べて多いにも関わらず、人口の8割以上が農村部で暮らすこの国では、障がいのある人々がリハビリテーションを受ける機会がほとんどありません。

JOCSは理学療法士と看護師を派遣し、地域のなかで障がいがある人とない人が共に生活していくことができるように支援しています。

Bangladesh派遣ワーカー

あやこ 山内章子(理学療法士)

Bangladesh 国内の4県で、で理学療法従事者への講習や指導、口唇口蓋裂児のトレーニング、リハビリテーションを必要としている人へのセラピーを実施しています。 Bangladesh では、正規の理学療法士は存在するものの、都市部に集中しています。山内ワーカーの働く地域ではある程度の技術を学んだ理学療法技術者と言われる人々が、障がい者の訓練や啓発活動をしたり、社会参加を促したりしています。山内ワーカーは、その技術者がよりよいサービスを提供できるようになることを目標に活動しています。



岩本直美(看護師)

マイメンシンにある、ラルシュという団体に活動しています。岩本ワーカーはそこで障がいのある人と共に暮らし、彼らの暮らしを支えるアシスタントの指導や、知識の向上のための研修の機会を提供しています。そこで暮らす人は、それぞれ得意なことを見出し、ろうそく作りやカード作りなど、仕事を持つように訓練を受け、いきいきと生活しています。岩本ワーカーは、障がいのあるなしに関わらず、その地域におかれた人が笑顔で生きていかれるように、心のケアや、地域づくりに力を入れています。



奨学金

人々が十分な保健医療サービスを受けにくい地域で働く保健医療従事者に、研修の機会を提供することで、その地域の保健医療レベルの向上に協力しています。研修後にその地域にとどまり、地域の人々のために働きたいと願う人を奨学生として選んでいます。



協働プロジェクト

現地の人々や現地団体が主体となって行う保健医療活動に協力しています。現地の力を活かせるよう、側面からサポートします。 Bangladesh の学校保健、タンザニアの診療統計分析能力強化、カンボジアで子どもたちの健康教育のプロジェクトを実施しています。



東日本大震災被災者支援

岩手県釜石市、福島県いわき市と福島県内児童養護施設で協力をを行っています。各地域の支援団体や社会福祉協議会などと連携しながら、それぞれの地域のニーズに合わせた活動を行っています。特に弱い立場におかれた人たちの支援や心のケアに力を入れています。